

1N-5

DS6500シリーズにおける 電子会議システムの運用管理

増田秀明, 野崎正治, 入江寛人
(株)東芝 府中工場

1. はじめに

LAN(Local Area Network)を介して、複数のパソコンをホスト計算機(ミニコン)と接続して、電子メールや電子会議によって情報交換をするようなシステムにおいて、システム管理者が行う作業には、結構手間がかかる。本稿では、DS6500シリーズ上で運用している電子会議システムでの運用上の問題点及びその対応策などを述べる。DS6500シリーズの電子会議システムでは、多人数対多人数のコミュニケーションをサポートする電子会議、個人間で情報交換を行う電子メール、文書を効率よく保管管理する電子ファイルの機能をサービスしている。

2. システム構成

電子会議システムは、DS6500シリーズのミニコンをホスト計算機とし、パソコン(J-3100)を端末としてLANに接続する形態でシステムが構築されている。(図1参照)

パソコンのワープロソフトを活用して、会議で述べるメッセージ文書やメールの文書を作成し、パソコンをホスト計算機の端末として動かして、電子会議システムを操作する。

3. 運用状況

本システムの運用は、'89年7月から始まり、当初は課内のみの運用に過ぎなかったが、同年11月現在では、一人につきパソコン一台の環境も出来つつありユーザ数も300人位となった。今後も規模の拡大を行っていく。

4. 運用作業

課内のみの運用とは異なり、他部門も含めた運用となると計算機の利用に関する経験や知識もかなり異なり、様々な形での運用に関する作業が発生してくる。次に、運用において発生する作業をあげる。

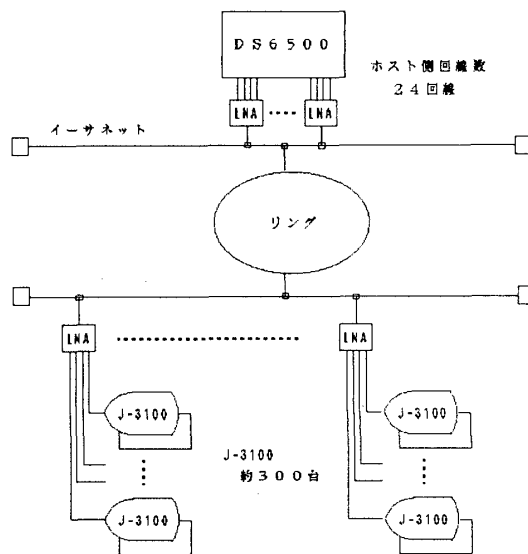
(1) 運用開始時に発生する作業

- ・システム環境構築
- ・ユーザ登録

(2) 運用中に発生する作業

- ・トラブル対応
- ・ユーザ追加登録
- ・環境の保存
- ・コンサルテーション
- ・改善要求

(1)については、避けられない作業であり、(2)のなかでも、ユーザの登録や環境の保存は定期的に行うものであり、避けられないものがある程度システムの使い方や、システム構成の決め方によっては、作業を軽減できるものもある。次に、運用で特に問題となった項目とその対応策について紹介する。



LNA:Local Network Adaptor
DS6500:ホスト計算機
J-3100:ラップトップパソコン

図1 システム構成図

5. 運用上の問題点と対応策

(1) ユーザの拡大

電子会議や電子メールなどは、ユーザの数が増えるほどその価値も上がって来る。そこで、ユーザの拡大を行うが、ホスト側でのユーザ登録はいつでも出来るが、実際に使わせてもらうには手間が掛かる。

まず第1に、一人一台のパソコンを持つ環境が必要となる。複数人に一台の環境では、使える時間や場所が限られ、業務で使わなければならない人以外はなかなか使わない。そこで、比較的安価で、オフィスの各人の机にも置けるラップトップパソコンを使い、現在の環境は出来つつある。

第2に、興味のある情報を提供するか、または、使わなければならない状況にする必要がある。興味のある情報としては、電子会議での話題やメールの内容で、業務に関する情報だけでなく趣味などのくだけた内容のものも扱うようにし、どうしても使わなければならない状況にするには、週報などのタイムリーな情報を掲示し、使わないと時代に乗り遅れてしまうようにする。また会議案内など重要な情報を掲示するようしたり、役職者などに連絡用として使ってもらい、上からのアクションによってその状況を作ってしまうなどの方法が効率的である。

以上の2点が普及のカギといえるだろう。

(2) 接続可能回線数

ホスト側での接続可能回線数には物理的に限りがあり、そのために、朝一番や午後一番に利用者が集中したとき、ホストとの接続が出来ない時がある。現在は、図1の様な構成になっている。接続可能な回線数を増やすには、物理的にLNA(Lan Network Adaptor)、ホスト計算機内のTCP(Terminal Control Processor)、その間のケーブル等を増やす必要があるが、ユーザ数が増える度に増設する訳には行かない。

現状では、使用が集中する時間帯を避けて使ってもらうとかの対策しかないが、これを解消するにはTCPにLNAの機能を吸収し、TCPから直接イーサネットケーブルに接続できるようにするとか、ハード的な接続方法の工夫が必要となって来る。

(3) コンサルテーション

ユーザ数が増えると、計算機の使用経験や知識のレベルの異なるユーザがシステムを使いだす。しかし使用経験の浅い人でも、ホスト側の機能とパソコン側でのワープロや表計算などの流通ソフトの機能を同レベルのメニュー選択により所在を意識する事なく使用できるImenu(統合メニューシステム)などにより使いやすいユーザインタフェースを提供し、さらに未読機能などのわかりやすい機能を搭載しているので使用方法を覚えるための苦労は少ない。またユーザ数が増えるとレベルによりその質問や要求は千差万別であり、対応にも苦労する。ユーザ全員の連絡等も含めてそのやりとりには、電子会議を利用し、全ユーザがその情報を見れるようにし、同じ説明をなるべくしなくて済むようにしている。これも、電子会議でもっている参加者管理やメッセージ管理機能により容易に行うことが出来る。

(4) パソコン側の環境に関するトラブル

本システムでは、パソコン側にも機能を分散し、一度に多くのユーザが使えるようにしている。そのために、パソコン側のソフト環境も整備しなければならない。パソコン側の環境は、ユーザ毎に異なり、パソコン側の環境が正しくないために発生するトラブルも少なくない。この問題は今後の課題だが、なんらかの形で、ホスト計算機側からパソコン側の環境を監視でき、問題箇所があれば、自動修復できる機能が必要であろう。

5. おわりに

本稿では、特に述べなかった問題点としてLANでのトラブル発生時の対応策などについても今後検討していきたい。また、DS6500シリーズの電子会議では、主にテキストベースによる情報交換を行なっているがよりリアルな情報伝達を可能とするためのマルチメディア対応も行って行きたい。